

相模湾から採集された ウオノエ科の1種(甲殻類, 等脚目)

倉持卓司*・池田 等**・渡辺政美***

On some records of *Cymothoa pulchra*
(Crustacea, Isopoda)
from Sagami Bay, central Japan

KURAMOCHI Takashi*, IKEDA Hitoshi**
and WATANABE Masami***

キーワード: フグノエ, 甲殻類, 等脚目, ウオノエ科,
相模湾
Key words: *Cymothoa pulchra*, Crustacea, Isopoda,
Cymothoidae, Sagami Bay

はじめに

魚類を宿主として寄生する等脚目ウオノエ科は、平岩(1934), 岩佐(1947), 椎野(1951, 1965), 斎藤ほか(2000), Nunomura (2001)などにより、日本周辺海域において、これまでに27種が報告されている。これらの種は、タイ科の魚類に寄生するタイノエ *Rhexanella verrucosa* をはじめ、シマアジ、トビウオ、フサアンコウなど特定の宿主を選択して寄生することが知られている。筆者らは、椎野(1951)以後、日本周辺海域からの採集記録のなかったハリセンボンに寄生するフグノエ(新称) *Cymothoa pulchra* Lanchester, 1902を相模湾より採集したので報告する。

本報告にあたり、沖縄での本種の寄生に関するご助言をいただいた沖縄記念水族館の戸田 実氏に感謝申しあげる。

フグノエ(新称)
Cymothoa pulchra Lanchester, 1902

採集地: 神奈川県横須賀市長坂斉田浜

採集日: 2002, 2.15

採集者: 渡辺政美

フグノエの寄生していたハリセンボンが採集さ

れた横須賀市斉田浜では、ほぼ同時期に合計24個体のハリセンボンが衰弱もしくは斃死した状態で打ち上げにより採集されたが、このうち本種が寄生していたのは1個体で雌雄1個体づつが確認された。三浦半島全域の海岸にも、ほぼ同時期に数百匹単位でハリセンボンの打ち上げが観察された(渡辺ほか, 2002)が、フグノエの寄生した個体は、これらの試料中からは見いだされなかった。

宿主: ハリセンボン
Diodon holacanthus Linnaeus (口腔内に寄生)

記 載

試料: HSM-Cri-0008 (HSM-Cri: 葉山しおさい博物館等脚目標本番号) 雌(体長31.5mm, 体幅13.8mm) Fig. 1, 2a-2b.

体は頭方部がやや狭ばまった長方形。頭部は楕形で前方に狭く、前後縁が湾曲する。頭部後側に位置する複眼は小さい。背側は第5胸節を中心に隆起し体幅が最大になる。第5胸節幅は第1胸節幅のおよそ1.2倍。尾節は扁平で半楕円形。左右の触角基部は離れ、8節の第1対は9節の第2対よりわずかに肥大する。

試料: HSM-Cri-0009 雄(体長18.2mm, 体幅8.5mm) Fig. 1, 1a-1b.

体は前・後方部がやや狭ばまった楕円形。頭部は楕形で雌同様に前方に狭く、前後縁が湾曲する。頭部後側に位置する複眼は顕著でなく小さい。背側は第5胸節を中心に隆起し、体幅は、第6胸節で最大になる。第6胸節幅は第1胸節幅のおよそ1.5倍。尾節は扁平で半楕円形。左右の触角基部は離れ、8節の第1対は9節の第2対よりわずかに肥大する。

分布: スンダ諸島, インドシナ。日本周辺海域においては、椎野(1951)より、千葉県小湊で雌の1個体が報告されたのみ。

比 較

椎野(1951)により報告された千葉県小湊産の雌

* 葉山しおさい博物館気付 c/o Hayama Shiosai Museum.

** 葉山しおさい博物館 Hayama Shiosai Museum, Hayama, 240-0111.

*** 横須賀市自然・人文博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka, 238-0016.

原稿受付 2002年9月30日, 横須賀市博物館業績570号.

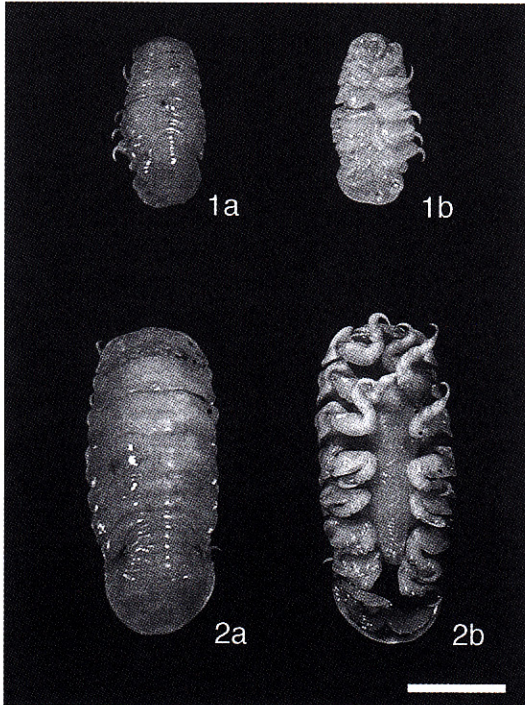


Fig. 1 *Cymothoa pulchra*.

1a: Dorsal view, 1b: Ventral view, male, HSM-Cri-0009 2a: Dorsal view, 2b: Ventral view, female, HSM-Cri-0008. (Scale: 10mm).

個体は、体長29.3mm、体幅13.0mmと本試料に比べわずかに小型である。本種は、琉球列島などの熱帯海域で採集されるハリセンボンに、比較的高い頻度で寄生している(戸田氏, 私信)。

日本周辺海域より、これまで報告されている *Cymothoa* 属の種は、本種とウオノエ *Cymothoa eremita* Bruemmich の 2 種のみであり(斎藤ほか, 2000), ウオノエは、1)前方胸節の幅が狭く、雌の第5胸節幅は第1胸節幅の1.6倍、2)第1節両縁の突出が顕著、3)第5-7胸肢の板状拡大は著しくないことで本種と異なる。

引用文献

- 岩佐正夫 1947. 等脚目. 改訂増補日本動物図鑑: 813-817. 北隆館, 東京.
 平岩馨邦 1934. タイノエとサヨリヤドリムシ. 植物及び動物. 2(2): 380-384.
 Nunomura N. 2001. A new species of the genus

Glossobius (Isopoda, Cymothoidae) from coetid fish caught in the sea near Tokyo, Japan. *Bull. Toyama Sci. Mus.* (24): 29-32.

斎藤暢宏・伊谷 行・布村 昇 2000. 日本産等脚目甲殻類目録(予報). 富山市科学文化センター研究報告, (23): 11-107.

椎野季雄 1951. 日本産魚類に寄生する等脚目に就いて. 日水誌, 16(12): 81-89.

椎野季雄 1965. 等脚目. 新日本動物図鑑(中): 543-545. 北隆館, 東京.

渡辺政美・倉持卓司・池田 等 2002. ハリセンボンの大量漂着. 潮騒だより, (13): 8-9.